

## 「3流クリスチャンになる」 ～信頼関係を大切に～

ヨハネ4：12～13

この聖書箇所はイスラエルでも大事なお祭りである仮庵の祭りの中で言われた言葉です。誰でも私から飲みなさい(ヨハネ4：12～13)とされていますが、この世には様々な渇きがあります。日照りなどが続くと地も渇くような自然界の渇きがあります。また人間ものどが渇くような肉体的な渇きもあります。幸せになりたい、立派になりたいというような精神的な渇きもあります。私たちにとって大事な渇きとは神様に熱心に求めることにつながるような渇きです。私たちは神様を求め、神様の御言葉を求めることが新しい1週間を力強く歩いていくために必要なことなのです。そして神様は誰も私も求めるものには与えて下さると約束してくださっています。人間は神様によって造られました。またいのちの息を吹き込まれることによっていのちあるものとされました。しかしアダムとエバが罪を犯した結果、神様から頂きたいのちを失ってしまいました。イエス様の十字架によっていのちが回復していきました。そして聖霊を受けることによって私たちの内からいけるいのちの川が溢れ流れるようになりました。クリスチャンとなると窮屈になると感じている人がいるかもしれません。「〇〇しなければならない」と束縛されると思ってしまうからです。本当は反対です。教会来ると自由になるのです。今日のメッセージは3流クリスチャンになろうというタイトルでお話ししていきます。みなさまはどうでしょうか。1流、2流のクリスチャンになろうとする難しい人もおられるかもしれませんが、3流ならなれると思うのではないのでしょうか。しかし今回お伝えしたいのは世の中の一般的に言われている3流というではありません。神様から受けたものを流していくという意味です。まず1つ目が**①汗を流す**ということです。これは生活の祝福です。旧約聖書にはルツ記というものあり、その中でルツはモアブから姑のナオミとイスラエルに帰った後、自発的に落ち穂を拾っている姿が描かれています。レビ19章に詳細は乗せられていますが、この落ち穂を拾うことは貧しい人を救う、または助けるために定めた神の恵みでした。この恵みは自分で受け取る時に初めて自分のものとなります。ルツは落ち穂を拾った時に恵みを受け取りました。まさに汗を流して恵みを自分のものとしたのです。拾っていくなかで神の摂理によってルツはボアズの畑へと導かれていきました。そこで2人は出会うのです。その出会いを通してダビデ、イエスと続く家系となっていきました。神様は私たちの汗を見ておられるのです。神様の用意する恵みは「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。(Iコリ2：9)」と書いてある通りなのです。続いては**②涙を流す**ということです。これは祈りの祝福です。私たちは自分のために涙を流す人は多くいるかもしれませんが。しかし他人のために涙を流すことは中々できないことでもあります。イエス様は他人のために涙を流す人生でした。種が芽生えるには水分が必要です。私たちが御言葉を伝え、心に種を撒いたとしても涙による祈りがないと御言葉の種が芽を出し、心に定着することはありません。私たちが祈るならばその人はクリスチャンとして立派になることでしょう。イエス様も死んだらザロを前にして涙を流しました。(ヘブル5：7)「キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。」このように聖書は記しています。イエス様ご自身もこの地上において涙と共に祈りました。最後3つめの流れは**③恵みを流す**ということです。これは証しの祝福です。私たちは恵みを受けていないと思っていますが、そうではありません。私たちは日常生活の中で神の恵みに溢れているのです。イスラエルには湖が2つあります。それはガリラヤ湖と死海です。2つは対象的な存在です。ガリラヤ湖は世界でも有数な漁場です。ヘルモン山からの豊富な資源を受けた水が入っています。そこにはたくさんの魚が生きているのです。その豊かな水となっているガリラヤ湖からの水がヨルダン川を経て死海に到達しています。しかし死海はどこにも流すことをしていないため、死んだ海のように塩分濃度が高く生物が生きることができないような湖となっているのです。私たちも受けた恵みを流さないとこのようになってしまうのです。私たちが神様から語られたことを人に伝えないとその恵みは死んだようになってしまうのです。ですから私たちは受けた恵みは周りの人に証しして流していきましょう。土師記12章で土師であったエフタはギルアデ人と共にエフライム人との戦ったことについて書いてあります。その中でエフライム人は追い詰められて逃亡しようとしていました。その中でギルアデ人はエフライム人との区別するために「シボレテ」という言葉を言いました。エフライム人はシボレテという言葉で正しく発音できず「スイボレテ」という発音になってしまうのです。その言葉からギルアデ人は敵であるエフライム人を見分けていきました。シボレテとは「流れ」という意味があります。このスイボレテとは「重荷」という意味です。クリスチャンはシボレテの言葉の通り「流れ」を作るものであり、それが本当の意味で自由になることです。今までの人生はスイボレテのように重荷を負っているようなものかもしれません。しかし3流のクリスチャンは自由なのです。今週はこの汗、涙、恵みを流すことを意識して歩いていきましょう。(ヨハネ4：13～14)「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」今週、私たちはイエス様が与える水を飲み、私たちの心から流れていくいのちの水を周りの方々に流し、周りの方々に潤していきましょう。(要約者：平澤 一浩)